

新潟市急患診療センター

Niigata City emergency case Clinical Center

いざという時、
あなたのすぐ側にある医療を目指して

耳鼻科疾患

新潟市医師会では市民の皆様への適正受診のお役に立つように、代表的な救急疾患の説明パンフレットを作成しました。いざという時の参考にしてください。

急性中耳炎

原因と症状

- ・鼻やのどの細菌が耳と鼻をつなぐ耳管(じかん)を通して中耳腔に入り感染することによっておきます。
- ・0歳から5歳までの乳幼児によく起こり、小学生になると起こりにくくなります。
- ・風邪などのあとに耳が痛くなったり、耳だれが出たりし、発熱することもあります。
- ・原因となる細菌はインフルエンザ菌や肺炎球菌が多くみられます。抗生物質が効きにくい、耐性菌による感染もあり、耳だれなどの検査が必要です。

治療

- ・治療は抗生物質の内服や点耳(耳に薬を入れる治療)、痛み止めの内服、座薬などで行います。
- ・炎症が強く、鼓膜が強く腫れているときは鼓膜切開(鼓膜を切って膿を出す治療)を行います。膿が出れば痛みがおさまり、治りも早くなります。
- ・耳の治療と同時に鼻やのどの治療も行います。
- ・痛みがとれても炎症は続きますので、医師の指示に従って治療を続けてください。
- ・適切な治療を受ければ1、2週間で治ります。
- ・中には鼓膜の奥に水が溜まる滲出性中耳炎に移行する場合がありますので医師の指示に従ってください。頻回に繰り返すと慢性中耳炎になることもあります。

家庭で注意すること

- ・夜中に耳の痛みがあるときは、手持ちの痛み止め(解熱鎮痛剤:カロナール等)があればそれを使いましょう。発熱が無くても使用して問題ありません。
- ・氷枕(アイスノン等)で痛い耳の周囲を冷やすことも有効です。
- ・痛みが和らいで寝付くことができれば、翌日耳鼻科を受診してください。
- ・痛みが改善したとしても、翌日には耳鼻科を受診してください。
- ・赤ちゃんは痛みを訴えられないので、風邪の後に「耳に手をやる」などのしぐさや「耳だれ」に注意しましょう。
- ・なかなか泣き止まない場合、中耳炎の可能性もありますので耳鼻科で相談ください。

急患診療センターを受診するめやす

- ・痛みが強く、手元に痛み止めがない場合は、夜間なら急患診療センターの小児科か内科で痛み止めを処方してもらってください。
- ・急患センターの耳鼻科外来は日曜、祝日、年末年始、GWの昼間(9時~18時)のみですので、翌日や休日明けに必ずお近くの耳鼻科を受診してください。

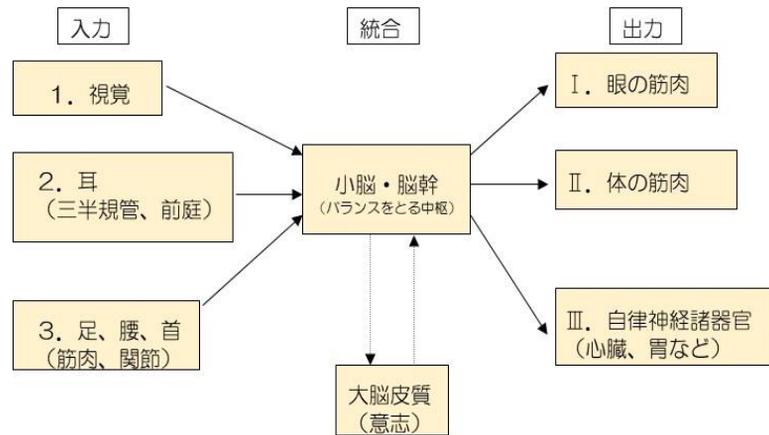
新潟市急患診療センター (電話025-246-1199)

<http://www.niigata-er.org>

急性めまい

原因と症状

- ・人はバランスをとるために目、耳、筋肉・関節からの情報を脳で統合し、図のように各器官に伝達します(図)。この仕組みのどこかに異常をきたすと、めまいが起こります。多くは、末梢性めまい(耳からのめまい)です。
- ・耳が原因のめまいでも、耳が悪いという自覚に乏しいことがほとんどです。
- ・症状としては目が回る、体がふらつく、心臓がバクバクする、吐気など多彩です。
- ・めまいで一番多いものは良性発作性頭位めまい症です。頭を動かしたり、寝返りをうったりする時に、めまいが起こります。このめまいは短時間で治まることがほとんどです。
- ・メニエール病は頻度が低く、繰り返すことで診断がつくので、診断がつくまで時間がかります。



図：バランスのしくみ

治療

- ・めまいが強いときには点滴(血液の流れを良くするクスリ、ビタミン剤、浮腫を防ぐクスリ、自律神経の調節剤など)を行います。
- ・飲み薬としては血管拡張剤、ビタミン剤、抗めまい薬を処方されることが多いです。
- ・カフェイン、アルコール、タバコは症状を悪化させることがあるので控えましょう。
- ・睡眠不足、過労、ストレスも症状を悪化させますので、それらがあれば改善しましょう。

家庭で注意すること

- ・めまい発作が起こったら横になってまず安静にしストレスを避けることが大事です。
- ・ある程度、めまいが治ったら最寄りの耳鼻咽喉科や神経内科などを受診してください。

急患診療センターを受診するめやす

- ・めまいが強く、吐いたり、動けない場合、平日の夜間は急患センターの内科を受診してください。詳しいめまいの検査はできませんが、めまい止めや吐き気止めの点滴、内服などを受けることができます。
- ・急患センターの耳鼻科外来は日曜、祝日、年末年始、GWの昼間(9時~18時)のみです。翌日に必ず最寄りの耳鼻科や脳外科、神経内科などを受診してください。
- ・めまいの他に、随伴症状、片側の手・足・顔面がしびれる、呂律がまわらない、ものが二重に見える、頭が割れるような頭痛がするなど、いずれかの症状がある場合は、中枢性めまい(脳からのめまい)の可能性があるので、早めに救急車を呼んでください。

新潟市急患診療センター (電話025-246-1199)

<http://www.niigata-er.org>

扁桃周囲膿瘍

原因と症状

- ・急性扁桃炎に続発し、口蓋扁桃(こうがいへんとう)の周囲に炎症が及ぶことで起こり、成人男性に多く見られます。
- ・扁桃に生じた急性炎症が扁桃の被膜を破って外に広がり扁桃周囲炎となり、そこに膿が溜まり膿瘍を形成すると考えられています。
- ・のどの炎症に引き続いて発症し、激しい咽頭痛が特徴です。
- ・通常は片側だけですが、症状が悪化すると耳にも痛みが広がり、口を開けにくくなることもあります。
- ・ものを飲み込むときの痛みも強く、唾液(だえき)を飲むことも困難になると、よだれをたらすという状態になります。
- ・全身的には、高熱を伴い全身倦怠感も高度で、経口摂取がほとんどできなくなると脱水状態となりますので、注意が必要です。

治療

- ・扁桃周囲炎の場合は、抗生剤を主体とした保存療法が選択されます。
- ・扁桃周囲膿瘍では、保存的治療はもちろんですが、膿汁の排泄を目的にした治療が有効です。
- ・膿汁の排泄には、膿瘍の場所や程度を考慮して、注射針で穿刺吸引する場合と、局所麻酔後にメスで1から2cm程度を切開する場合があります。
- ・外科処置に加えて、点滴注射により抗生剤を投与に加えて脱水の改善を図ります。

急患診療センターを受診するめやす

- ・痛みが強く、発熱もあり、食事ができない、口が開かないなどの場合は、急患診療センターを受診してください。
- ・急患診療センターを受診したあとも、必ず近くの耳鼻科を受診してください。
- ・ただし耳鼻科外来は日曜、祝日、GW、年末年始の昼間(9:00~18:00)のみで、その他は内科や小児科での診察となることもあります。
- ・のどの腫れが強く、呼吸が苦しくなるようであれば、市民病院か大学病院に相談するか救急車を呼んでください。

新潟市急患診療センター (電話025-246-1199)

<http://www.niigata-er.org>

鼻出血症

原因と症状

- ・ 鼻の中は粘膜でおおわれていますが、アレルギー性鼻炎や副鼻腔炎があると粘膜に傷がつきやすく、その下にある血管も破れやすくなって鼻出血が起きます。
- ・ 出血の多くは鼻の入り口近くの真ん中のしきい(鼻中隔)からで、キーゼルバツハ部位といわれ、毛細血管がたくさん集まっています出血しやすくなっています。
- ・ 顔を洗った時など小鼻を触るだけで鼻の中の粘膜が擦れ出血します。
- ・ また、高血圧や動脈硬化などの合併症がある場合、血管が脆くなっていることが多く圧迫困難な場所(鼻の後方や下方など)からの大量出血を起こすことがあります。

家庭で注意すること

- ・ 出血した場合はまず圧迫止血を試みます。
- ・ 横にならず椅子に座って軽く下を向きましょう。落ち着いて小鼻をつまみ、両脇から10～15分強めに圧迫をします。ほとんどの場合この方法で止まります。
- ・ 横になると血液がのどにまわって飲み込んでしまい、吐き気や嘔吐の原因になります。もし口の中に血液がまわってきた場合は吐き出すようにしましょう。
- ・ お子さんの場合10分圧迫をするのは難しいと思いますが、できるだけ長く圧迫をしましょう。

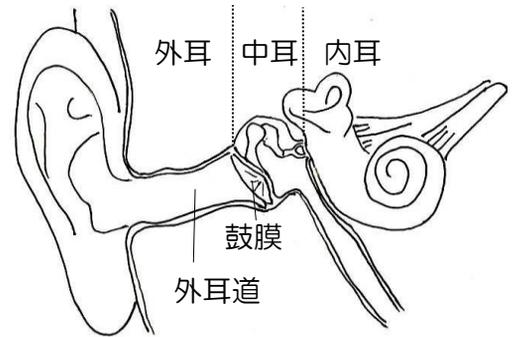
治療

- ・ 圧迫止血を行い止血しても出血を繰り返す場合は診療時間内にお近くの耳鼻咽喉科を受診してください。
- ・ 止血できない場合は急患センターを受診してください。出血の状態によって粘膜の電気凝固やガーゼによる圧迫を行うことがあります。
- ・ ただし、急患センターの耳鼻科外来は日曜、祝日、GW、年末年始の昼間(9:00～18:00)のみですので、その時間以外の場合は市民病院か大学病院に相談してください。

救急車を呼ぶめやす

- ・ 出血が激しく、圧迫をしても両側の鼻や口から血が出てくる場合は救急車を呼びましょう。
- ・ 意識が朦朧としている場合や外傷による出血の場合には、手術や入院が必要になることがあるため、市民病院や大学病院などでの治療が必要になります。
- ・ 急患センターの耳鼻科外来は日曜祝日、年末年始、GWの昼間(9時～18時)のみです。

外耳道異物 (耳の中に入った虫など)



原因と症状

- ・耳の中に入ったものを外耳道異物と呼んでいます。
- ・子どもではおもちゃや豆が多く、特にBB弾が多いです。
- ・耳の穴が大きい大人では昆虫(蛾、蚊、カナブン)が多く、激しい痛みと騒音が起こります。

診断と治療

- ・耳の中を耳鏡やファイバーで観察します。
- ・簡単に摘出できることが多いですが、痛みの強い場合や子どもで暴れる場合は全身麻酔が必要なことがあります。その場合は市民病院などに治療をお願いすることになります。

家庭で注意すること

- ・BB弾、おもちゃなど、特に痛みがない場合は翌日以降に耳鼻咽喉科を受診してください。
- ・昆虫が入り、激しい痛みや騒音がある場合は、ぬるめのお湯を耳の穴があふれるくらいに入れて、まずは昆虫を殺し動かないようにします。落ち着けば、翌日以降に耳鼻科を受診してください。

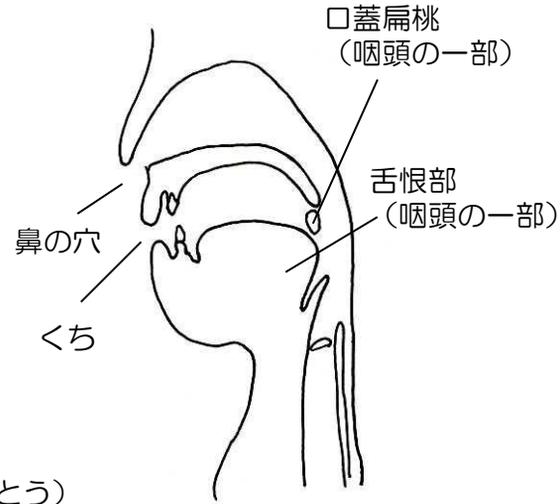
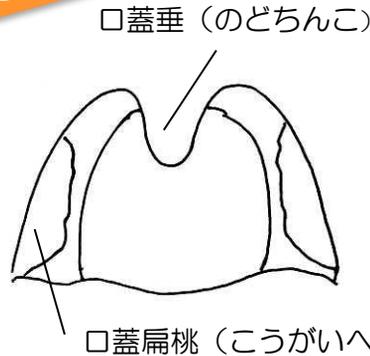
急患診療センターを受診するめやす

- ・めまい、難聴、耳鳴りがある場合は鼓膜が破れて内耳まで障害が起こっている可能性があるため、急患センターの耳鼻科受診を勧めます。
- ・ただし急患センターの耳鼻科外来は日曜、祝日、年末年始、GWの昼間(9時~18時)のみです。それ以外の時間で我慢できない場合は市民病院か大学病院にご相談ください。
- ・症状が軽い場合は翌日に最寄りの耳鼻科を受診してください。

新潟市急患診療センター (電話025-246-1199)
<http://www.niigata-er.org>

咽頭異物

(のどに刺さった魚の骨など)



原因と症状

- ・ 咽頭異物とは誤って飲み込んだ異物がのどに引っかかることです。
- ・ 異物の種類として圧倒的に多いのは魚の骨で、多くは口蓋扁桃に引っかかります。薬の包装や義歯なども原因となります。
- ・ 飲み込んだ直後から、のどに物が引っかかった感じや痛みが現れます。

診断と治療

- ・ 口から直接、あるいは鼻から内視鏡を入れて、まず異物をさがし、異物が見つかれば摘出を試みます。
- ・ 異物が見つからなければCTなどの画像診断で確認することがあります。
- ・ 異物が脱落しても咽頭痛や違和感などの症状が残ることがありますし、小さいものなどは発見が難しいこともあります。

家庭で注意事項

- ・ 異物を取ろうとして、ごはんを丸飲みする人がいますが、これではかえって異物が深く刺さってしまうこともあるので避けましょう。
- ・ 診察で異物が見つからなくても痛みなどの症状が続くようであれば、再度診察を受ける必要があります。

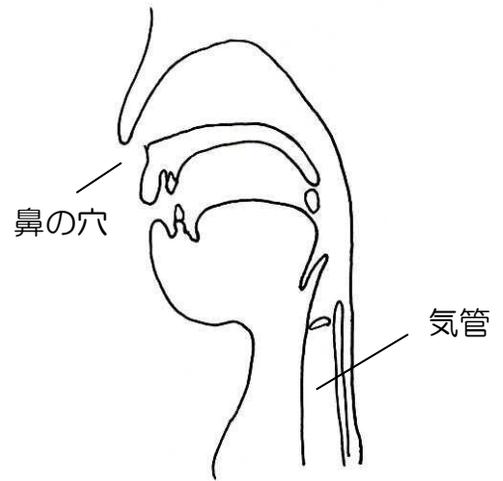
急患診療センターを受診するめやす

- ・ 異物を飲み込んだ後、痛みや違和感がある場合はすぐに急患センターの耳鼻咽喉科を受診してください。
- ・ ただし急患センターの耳鼻科外来は日曜祝日、年末年始、GWの昼間(9時~18時)のみです。
- ・ 小さな骨などは自然にとれることもありますが、症状が続く場合は翌日でも結構ですので最寄りの耳鼻咽喉科を受診してください。
- ・ 痛みが強く呼吸が苦しいような場合は救急車を呼んでください。

新潟市急患診療センター (電話025-246-1199)

<http://www.niigata-er.org>

鼻腔異物 (鼻の中に入ったBB弾など)



原因と症状

- ・鼻の中に異物を入れてしまい、取れなくなったものを鼻腔異物といいます。
- ・ほとんどがお子さんで、おもちゃ、ティッシュペーパー、BB弾が多いです。
- ・最近では認知症の高齢者も多くなっており、注意が必要です。
- ・子どもや高齢者は特に症状を訴えないので、しばしば長期に放置され、悪臭や色のついた汚い鼻水で、親などの家族が気づくこともあります。

診断と治療

- ・鼻の中の手前の方であれば、診断は簡単です。
- ・前の方でない場合は、奥の可能性もあり、内視鏡で観察します。
- ・丸くてツルツルしたものは滑りやすく、摘出は意外と困難です。
- ・子どもの場合、泣き叫ぶ際に吸い込んでしまい、気管の方へ行く危険があります。
- ・鼻の粘膜が傷ついて、鼻血が出て、摘出ができなくなることもあります。

家庭で注意すること

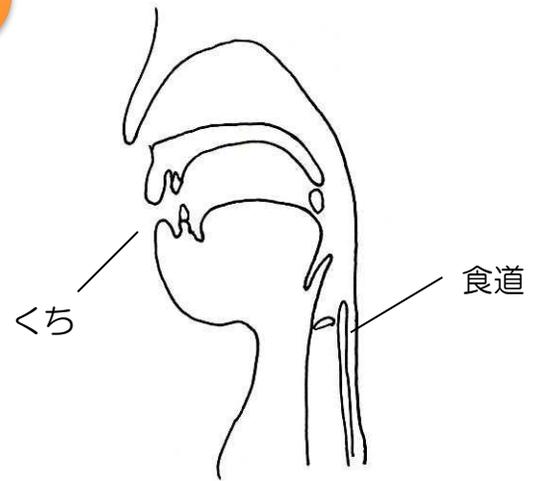
- ・無理して取ろうとして異物が気管の方へ行くと危険ですし、鼻血が出ても大変です。耳鼻科を受診しましょう。

急患診療センターを受診するめやす

- ・BB弾、パチンコ玉などは気管に入ると窒息の危険があり、豆類はふやけて大きくなると取りにくくなるので、すぐに耳鼻科を受診しましょう。
- ・ボタン型電池は粘膜が溶けるのですぐに耳鼻科か小児科を受診しましょう。
- ・ただし急患センターの耳鼻科外来は日曜祝日、年末年始、GWの昼間(9時~18時)のみです。
- ・上記以外の場合は市民病院か大学病院にご相談ください

新潟市急患診療センター (電話025-246-1199)
<http://www.niigata-er.org>

食道異物 (硬貨、薬の包装シート、入れ歯など)



原因と症状

- ・飲み込んだものが食道に詰まって起こります。
- ・子どもでは誤って飲んだおもちゃや硬貨が多く、高齢者では入れ歯や薬の包装（PTPシート）や食塊が多いです。
- ・大人では異物を飲み込んだ後、痛みが出たり、飲み込みが悪くなったときや呼吸が苦しくなったときに疑います。
- ・子どもでは、食べると吐く、つばを飲み込まない、元気がなく何となくおかしいという症状が出ます。

診断と治療

- ・ボタン型電池、硬貨、義歯、大きな魚骨であればX線で診断可能です。
- ・PTPシートはCTで確認する必要があります。
- ・食道入口部にあるものは耳鼻科の外来で摘出できることがありますが、多くの場合、消化器内科にお願いし、上部消化管内視鏡で摘出してもらいます。

家庭で注意すること

- ・誤飲の可能性があるものは子どものそばに置かないようにしましょう。
- ・PTPシートを1錠ごとに切り離すことはやめましょう。

急患診療センターを受診するめやす

- ・ボタン型電池は食道粘膜の障害、義歯、大きな魚骨は窒息、穿孔のリスクがあります。すぐに受診しましょう。
- ・ただし急患センターの耳鼻科外来は日曜、祝日、GW、年末年始の昼間(9:00~18:00)のみですので、我慢できない場合や不安な場合は市民病院か大学病院に相談してください。

新潟市急患診療センター（電話025-246-1199）
<http://www.niigata-er.org>

気道異物



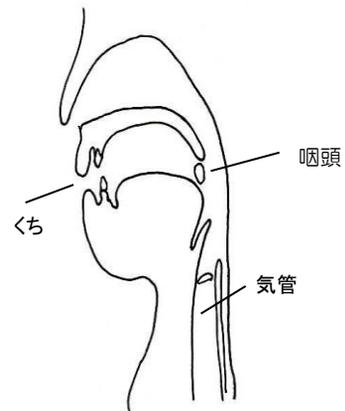
図1



図2



図3



原因と症状

- ・異物が気管や肺に入ったものを気道異物といいます。
- ・気道異物は窒息の危険が高く、死亡例も多い疾患です。
- ・年齢層は、乳幼児や嚥下機能の低下した高齢者に多いです。
- ・症状は、突然の咳き込み、かすれ声、ゼーゼーした呼吸、息苦しそうにしている、顔が青白いなど、自分の喉を親指と人差指でつかむ「窒息サイン」（チョーキング・サイン、図1）があります。
- ・異物の種類は、高齢者では餅や義歯ならびにP T P（Press-through package、錠剤やカプセルの包装）、子どもではピーナツや枝豆などが多いです。

診断と治療

- ・レントゲンやCTで異物を確認し、異物が疑われれば外来処置のレベルを超えており、大学病院や市民病院などの大きな病院での治療が必要となります。

家庭で注意すること

- ・2歳以下では、異物が原因で死亡することがあります。
2歳以下の子どもには、ピーナツは食べさせないようにしましょう。
- ・呼びかけに応じることができる「窒息サイン(図1)」の患者さんに対し、喀出させる緊急処置法としてハイムリック法(腹部突き上げ法、図2)があります。救助者が患者の背部から両手を患者のへその直上の腹部に回し、拳(こぶし)を作って組み、素早く内上方に突き上げます。
- ・乳児に対しては、子どもを救助者の腕にのせ、背部叩打法(図3)を行います。
頭を下げて、背中を叩き、異物を吐かせます。
- ・意識のない際には、救急依頼(119番)し、直ちに心肺蘇生法を開始します。
心肺蘇生法をおこなう際、気道確保・人工呼吸をおこなう度に咽頭内の異物を探し、もしあれば取り除きます。

急患診療センターを受診するめやす

- ・急患診療センターでは対応が不可能なので、新潟市民病院か大学病院を受診する必要があります。大至急、救急車を呼んでください。

新潟市急患診療センター（電話025-246-1199）

<http://www.niigata-er.org>

耳垢栓塞



乾性耳垢

湿性耳垢



耳垢とは“耳あか”のことです。

原因と症状（耳の構造と耳垢のでき方、しくみ）

- ・ 外耳道は耳の入り口から鼓膜までの2～3cmほどで、外側1／3は軟骨からできており、そこには耳垢腺、皮脂腺（汗腺の一種）と、耳毛があります。
- ・ 耳垢は耳垢腺と皮脂腺の分泌物、剥がれ落ちた外耳道の皮膚、塵埃などが混じりあってできたものです。
- ・ 乾性耳垢（かさかさ耳）と湿性耳垢（べとべとのアメ耳）は、遺伝的な個人の体質による違いで、アメ耳は病的なものではありません。
- ・ 外耳道には自浄作用（外耳道の表皮が深部の鼓膜側から外側へ移動する作用）があり、自然に外へ排出されるようになっています。
- ・ 耳垢がたまって外耳道がふさがれた状態を耳垢栓塞といいます。耳掃除で耳垢を奥に押し込んだり、入浴やプール後に耳垢が水分を含み膨張し外耳道が閉塞され、聞こえが悪くなったと感じることもあります。時には痛みを伴うこともあります。
- ・ 外耳道が狭い小児や、自浄作用が低下した高齢者では耳垢がたまりやすくなります。

治療（家庭での耳掃除について）

- ・ 耳垢は自然に体外へ排出するため、基本的に耳掃除は不要とされています。耳掃除をするにしても外側をふき取る程度で十分です。
- ・ 耳掃除をしすぎて外耳道を傷つけたりしてしまうと、外耳道炎になる恐れもありますので、注意しましょう。
- ・ 取りきれない場合は、近くの耳鼻科で取り除いてもらうといいでしょう。除去が難しそうな場合は、耳垢を軟らかくするお薬を使用してから取る場合もあります。

新潟市急患診療センター（電話025-246-1199）

<http://www.niigata-er.org>

突発性難聴

原因と症状

- ・突然、内耳に障害が起こり、聞こえが悪くなる病気です。
- ・原因不明の病気ですが、その原因として内耳の血流障害やウイルス感染による可能性が考えられています。
- ・主な症状は、突然聞こえが悪くなる、耳のふさがった感じ(耳閉感)で、耳鳴やめまいを伴うこともあります。
- ・多くの場合は片方の耳に症状が出ます。

診断と治療

- ・診断には聴力検査が必要です。
- ・治療は循環改善薬、ビタミン剤、ステロイドホルモン剤を組み合わせる1週程度内服もしくは点滴による治療が中心ですが、高圧酸素治療を行うこともあります。
- ・糖尿病がある方は血糖値の管理が必要で、耳鼻咽喉科のある病院に入院し、治療する場合があります。

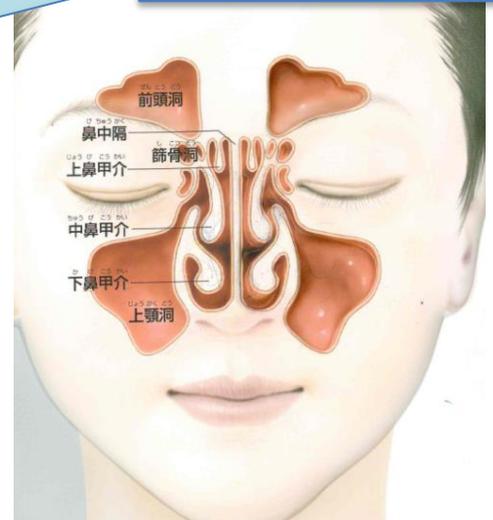
この病気の注意点

- ・この病気は発症後、できるだけ早く治療を始めることが極めて大切です。
- ・できれば1週間以内、遅くとも2週間以内には最寄りの耳鼻咽喉科を受診してください。
- ・早期に治療を始めないと、内耳の細胞が変性を起こし回復が難しくなるといわれています。
- ・早期に治療を開始しても30～40%の方には難聴や耳鳴など後遺症が残るといわれています。
- ・治療開始後1週間程度は激しい運動や過労、ストレスになることは避けて、規則正しい生活を心がけましょう。

急患診療センターを受診するめやす

- ・休日に、急に難聴となった場合は急患センターを受診してください。
- ・ただし急患センターの耳鼻科外来は日曜、祝日、年末年始、GWの昼間（9時～18時）のみです。
- ・それ以外の時に発症した場合は、翌日に最寄りの耳鼻科を受診してください。
- ・激しいめまいを伴い、頭痛や呂律不良、顔面や手足のしびれ・麻痺などの症状を伴うときは救急車を呼んでください。脳の病気が疑われるため早急を受診する必要があります。

急性副鼻腔炎



原因と症状

- ・ 鼻や目の周りには骨に囲まれた空洞がいくつかあり、この空洞に細菌やウイルス感染が起こって膿が溜まるのが急性副鼻腔炎です。
- ・ 症状としては、頬、額や目の奥の痛み、膿まじりの汚い鼻水、鼻づまりや鼻水がのどに下がる後鼻漏などがあります。
- ・ その他に、鼻水が原因の痰や咳などもあり、全身的には頭痛、発熱、全身倦怠感なども見られます。

診断と治療

- ・ 診断は、鼻内を鼻鏡やファイバースコープなどで丹念に観察し、必要があればレントゲンやCTなどの画像検査によって行います。
- ・ 治療は原因菌に有効な抗菌薬や消炎鎮痛薬を投与します。
- ・ きちんと直し切らないと急性副鼻腔炎の後に慢性副鼻腔炎になることもあるので、耳鼻咽喉科で治るまでしっかりと適切な治療を受けてください。

家庭でできること

- ・ 痛みがある場合は、手持ちの痛み止めがあれば服用してください。
- ・ たとえ痛みが治まっても、翌日には耳鼻咽喉科を受診してください。

急患診療センターを受診するめやす

- ・ **痛み止めがなく症状が強い場合は急患診療センターを受診しましょう。**
- ・ ただし耳鼻科外来は日曜、祝日、GW、年末年始の昼間(9:00~18:00)のみですので、我慢できない場合は市民病院か大学病院に相談してください。

急性扁桃炎



原因と症状

- ・ 子どもから大人まで見られる病気です、頻回に繰り返す人もいます。
- ・ 細菌やウイルスなどの病原体が口蓋扁桃に侵入増殖し、口蓋扁桃が痛みを伴って赤く腫れたり、膿が付いたりするのが急性扁桃炎です。
- ・ 耳が痛くなったり、口蓋扁桃に近い首のリンパ節が腫れることもあります。
- ・ 主な症状はのどの痛みと発熱です。痛みが強い場合には食事ができないこともあります。
- ・ 発熱は40度前後と高熱となることも珍しくなく、全身のだるさや関節痛を伴うこともあります。

診断と治療

のどの痛みと高熱、口蓋扁桃の発赤と腫れ、白い膿の付着があればまず急性扁桃炎を疑います。治療は抗菌薬や消炎鎮痛薬を内服します。痛みが強く、食事がとれない場合は点滴をすることもあります。

重症の場合は入院になることもあり、頻回に繰り返す場合は手術をお勧めします。

家庭でできること

手持ちの痛み止めがあれば内服し、水分を十分に取り、翌日に耳鼻咽喉科を受診しましょう。

急患診療センターを受診するめやす

- ・ 痛み止めがなく、食事がとれないなど症状が強い場合などに受診してください。
- ・ 耳鼻科外来は日曜、祝日、GW、年末年始の昼間(9:00~18:00)のみで、その他は内科や小児科での診察となることがありますので、翌日必ず耳鼻咽喉科を受診してください。
- ・ のどの腫れが強く、呼吸が苦しくなるようであれば市民病院か大学病院にご相談ください。

新潟市急患診療センター（電話025-246-1199）

<http://www.niigata-er.org>

インフルエンザ

インフルエンザの特徴とかぜのちがい

- ・インフルエンザはかぜに比べ、突然発症し、高熱・頭痛・関節痛・筋肉痛など、全身症状が強いのが特徴です。併せて、のどの痛み・鼻汁・咳や嘔吐、下痢などの症状を伴うこともあります。
- ・小児では、急性中耳炎や急性副鼻腔炎を併発することがあり、耳痛、汚い鼻汁、頭や頬の痛みが生じる場合もあります。激しい頭痛、嘔吐があれば合はインフルエンザ脳症に要注意です。
- ・例年12月～3月が流行シーズンで、園や学校で感染が急速に拡大します。家庭において高齢者の感染には注意が必要です。

潜伏期間

- ・1～7日(平均2日)。インフルエンザに罹った人の咳・くしゃみ・つばなどの飛沫から放出されるウイルスを鼻やのどから吸い込むことで感染します。

検査

- ・細い綿棒で鼻汁をとり、検査します。10分程度で結果が出ます。発症して間もないと(発熱から24時間経過後の検査が望ましい)ウィルス量が少なく、陰性となることもあります。その場合には、翌日再検査を行う場合もあります。

家庭で気を付けること

- ・安静にし、水分補給をして脱水にならないよう気を付けましょう。
- ・入浴は熱が下がってから疲れない程度にしましょう。
- ・吐き続ける、頭痛や咳がひどくて眠れないなどの症状がある場合は小児科や内科を受診してください。
- ・中耳炎、副鼻腔炎を併発する場合があります。耳が痛い、耳から汁がでる、黄色い鼻汁が出る、頭が痛い、頬が痛いなどの症状がある場合は耳鼻咽喉科を受診してください。
- ・抗インフルエンザ薬を使用すると発熱期間が短縮されます。解熱剤には、アセトアミノフェンを用います。ご家庭でお持ちの解熱鎮痛剤のご使用は、医療機関にご相談ください。
- ・タミフルと転落等異常行動との関連は今のところ不明ですが、タミフルの服用の有無にかかわらず、自宅で療養する場合は少なくとも2日間、小児や未成年者が一人にならないよう配慮してください。ウイルスによるインフルエンザ脳症でも同様の異常行動が現れることがあります。
- ・発症後2～5日間はウイルスの排泄を認めますので、解熱後も家庭内でマスクの着用をしてください。

幼稚園、学校やお仕事のお休みの期間

- ・出席停止期間は、発症(発熱)した翌日から数えて5日間、かつ解熱した後2日(幼児では3日)を経過するまでは登校、登園、出勤はできません。
- ・登校許可証は、各学校や園に必要な有無を確認し、必要な場合は許可証を持参の上、医療機関を受診してください。

新潟市急患診療センター (電話025-246-1199)

<http://www.niigata-er.org>